

地域の文化

特集 『文化の秋』



支える

文化

私たち

を

11月3日は「文化の日」です。つるせ西だより編集委員会では、日ごろこの地域の文化的な活動を支えてくださっているたくさんの方々の中から、3人の方にお話を伺いました。



市川倫生さん



地域の活性化に
笑いも取り入れて

すっかり都市化され、コミュニケーションが取りにくくなってきた私たちの街を、活気のある街にするのに、私たちが何か出来ないかと話

題になりました。

各々の持つ個性？を活かした芸を見てもらったら、地域の方々が生活の中に笑いを取り入れることが出来たら、コミュニケーションのもとになる、地域の活性化につながるのではと「素人大道芸一座」を旗揚げしました。

このメンバーの一人が市川さん。長年、町会長を務め活躍された方ですが、別の分野でも力を発揮しています。

市川さんの持ち芸は、「皿回し」「水風船」「トーク」で、どこの会場でも皆さんが楽しく遊ぶ環境を作ってくれます。

鶴瀬西交流センターの縁日、フェスティバル、日本語サークルや敬老会、富士見ふるさと祭り、介護施設などで、公演をしてきました。その他



鶴瀬西交流センター「縁日」や「フェスティバル」で大道芸の仲間と得意の皿回しを披露、子どもも大人も大盛り上がり

たくさんのイベントに参加し、頑張っています。アイデアマンで地域のまとめ役の市川さんに頭が下がります。
(萩原)

板垣義一さん



地域活動はゆっくりと

板垣さんは、新潟県で育ち、高校卒業後、進学のため故郷を離れ、現在は、富士見市に居を構えています。

大学卒業後は、音楽関係に従事され、ご活躍されました。

退職後、地域への貢献を考えていた平成19年ごろに富士見市の広報でパワーアップ体操のリーダー募集案内を見て、応募されたのがそもそもの始まりで、現在、西交流センターで46の方に毎週木曜日に指導されています。当初は、「介護予防」効果を見据えて指導されたそうですが、今は参加者同士が楽しく会話することでも、元気が得られると感じているとのこと。

また社会人として仕事柄身についていた楽曲の事例を駆使し、鶴瀬西交流センターの歌「ふれあい」の作曲もされ、各種行事の際に歌われていきます。

音楽を仕事としていた社会人時代は、音楽に興味にする気にはなれなかったが、今は、音楽を趣味として楽しみたい気になり、10年ほど前からウクレレをさまざまな地域のみなさんに指導されています。



パワーアップ体操で元気に



したそつです。

結婚と同時に昭和48年富士見市に移り住み、子どもを通じて知り合ったお母さんたち5人で踊りの先生に民謡舞踊を教えてもらい始め、山形県の民謡花笠音頭に出合いました。

むずかる子どもをあやしたり、おむつを替えたり大奮闘しながらとにかく楽しく踊っていました。若くしてご主人を亡くされても、踊りが人生の支えになっていたそうです。

東京音頭、炭坑節、花笠音頭の3曲は、数十年たった今でも踊り続けています。

東喜和淑秋先生に本格的に習い数十年たちます。夢のような大きな舞台(キラリ☆ふじみ等)で踊ることができたことがうれしかったそうです。

奥の深い踊りの世界、何事も勉強のためと、交流センター、公民館、集会所等を駆け巡り、地域の皆さんに教えられています。和服にもん

へ姿で自転車にまたがり、市内を走り回っている姿が印象的です。
輪踊りのときは楽しく、また舞台に向けては厳しく指導すること。踊ることを覚え、踊れることを知りとても幸せですとお話してくださいました。
(川村)



(右) 富士見市日本舞踊連盟 第12回公演素おどりの会(キラリ☆ふじみ)の大舞台で
(左) 赤い頬のおてもやん、明るく楽しい舞踊も魅力の一つ

龍本淑啓さん



踊ること 踊れること

踊ることの始まりは、小学校5年生の時、町会の夏祭りにお母さんにゆかたを着せてもらい出かけたことです。

そこで東京音頭、炭坑節を大人や子どもたちが軽やかに踊っている姿を目の前にして、すごく感動し、その場で輪の中に入り楽しい思いを